新潟県立三条東高等学校 同窓会（慕光会）

慕光会会報

丘山先生 書

創立百周年記念特別号

発　行　新潟県立三条東高等学校 創立百周年記念事業実行委員会

制　作　新潟県三条東高等学校 同窓会（慕光会）
〒955-0053
新潟県三条市北入蔵 2-9-36
Tel: 0256-38-6461
Fax: 0256-38-0519
URL: http://bokoukai.com/
E-mail: info@bokoukai.com/

同窓生数 25,976人（平成22年3月3日時点）
在校生数 976人

三条東高百周年を迎えるにあたり

慕光会会長
加藤一芳
高33回生（昭和56年卒）

慕光会会員の皆様、日頃は同窓会活動に対しご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。住谷前会長から慕光会会長職という大役を引き継ぎました加藤でございます。若輩、微力ではありますが慕光会、三条東高のため精一杯努力する所存でございますから何卒ご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

さて、ご存知のとおり我校は今年で百周年の大きな節目の年を迎えます。明治四十三年三条町・町立三条女子工芸学校として創立してから何度か校名も変わりながらも二万六千人の同窓生を輩出してきた伝統校として、新潟県立三条東高等学校は本年百周年を迎え、次なる百年に向かって進もうとしております。

良妻賢母の養成を担った旧制高等女学校といった位置づけから、共学校に組織替えになって久しく、が今や男女比率もほぼ同等になりました。

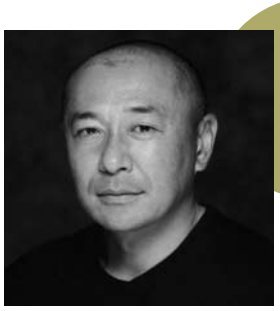
学業においても国公立大学をはじめとした大学進学率も高くなり、駅伝をはじめとしたスポーツ部門や吹奏楽部など文化部活動にも大いに活躍され、すばらしい成果を残しております。私も本校の先輩として大いに誇らしく思います。慕光会も今後は、卒業生である慕光会会員に向けてのみならず、今まで以上に在校生に対しても、物心ともに様々な形で支援活動を繰り広げていく予定です。その一環として、この会報も今回から在校生にも配布されます。慕光会の活動を理解していただくことはもちろんですが、本号でも対談記事が掲載されています俳優の高橋克美さんをはじめ、各界で活躍している卒業生の姿を知ることで、生徒の将来の進路に対する指針や参考になればいいと考えております。

その百周年記念事業ですが、慕光会・後援会・ＰＴＡとで構成されておりますが、実行委員会会長を羽生元慕光会長に、私を含め各組織の会長を実行委員会の副会長に、その下に各組織の会員、役員で構成される事業係、記念誌係、式典係などで組織されております。百周年の式典は今秋に予定されておりますのでこれからが本番です。記念式典、記念講演、記念誌発刊、学校に対してはグランド脇に屋外活動支援施設の設置など多くの事業費が予想されます。詳細については本誌同封の「百周年記念事業趣意書」をご覧になってください。なお、本誌は例年の〔三条東高　慕光会〕ではなく〔百周年記念事業実行委員会〕の発行です。本誌の発行が例年より遅くなりましたのも、このように百周年記念事業の一環としての本誌の位置づけがあり、百周年記念事業について、より多くの皆様にもご理解をいただき、ひいては寄付金のご協力をお願いしたいからであります。世の中は不景気の真っ只中ではありますが、皆様にご寄付をいただけますことを伏してお願い申し上げます。

ところで慕光会では百周年記念事業とは別に、今年も七月には慕光会総会が開催されます。総会では前年度の事業報告・決算報告、本年度の事業計画・収支予算などを審議してその後は懇親会となります。例年八十人前後の参加者ですが、この会で懐かしい恩師や同窓生にお会いできることを皆様楽しみにしております。また、毎年素敵なアトラクションがありますが昨年はきらきら保育園の和太鼓の演奏、その前は藤原歌劇団の永桶康子さんのオペラでしたがどちらも大変好評でした。

さあいよいよ百周年になりました。慕光会の会員皆様、一致団結で大いに盛り上げていきましょう。最後に本会法発行に関して大いにご協力いただきました同窓会会員の皆様、学校関係者の皆様、後援会皆様、ＰＴＡの皆様に心からお礼申し上げます。

卒業生クローズアップ



高橋克実さん
俳優（高31回生）

加藤会長「本日はお忙しい中お越し頂きありがとうございます。私は2期後輩になります。同じ校舎で一年ではありますが同じ時間を共有する先輩がＴＶでご活躍されていることを大変うれしく、また誇りに思っておりました。慕光会会報もこうして第一線で活躍されている先輩方をクローズアップするという企画を通しまして、東高生で居たことに誇りを持ってもらおうと思っております。今日は短い時間ではありますが、楽しいお話をお聞かせください。」

高橋克実「こちらこそ宜しくお願いします。東高も来年はいよいよ百周年ということをお聞きしております。私に出来ることがあれば協力は惜しまないつもりです。」

加藤会長「百周年は実行委員会も立ち上がりこれから事業に向けて本格的に動き出します。克実先輩からそのような有難いお言葉を頂戴でき、大変心強く思いました。それにしても最近のご活躍はまさに飛ぶ鳥を落とす勢いですが、今に至るまでにはやはりご苦労されたことと思います。役者への道はやはり高校時代から夢だったのでしょうか。」

高橋克実「いえ、まさか自分が役者になろうとは思っても見ませんでした。今でもそれは変わりませんね。松本幸四郎さんの舞台に参加させて頂いたのですが、幸四郎さんが『克実くん』と声を掛けてくれる。あの松本幸四郎さんに自分という人間が認識されているというのは夢のような世界ですよね。今まではＴＶの向こう側に居た人たちで、自分はこっち側だった訳ですからね。

　最近のＴＶドラマはワンクール（3か月）で終わっちゃうけど、私達の時代は半年とか1年とかだっだじゃないですか。それに青春ものや刑事ものみたいにシリーズで番組は新しくなるんだけど、出ている役者はほとんど同じ（笑）。そういうの見て育ちましたから結構ドラマに入り込んでました。ＴＶの向こう側は大抵は東京でしょ。だから本当に東京に憧れていました。大学へ行きたいとかじゃなくて、とにかく東京に出たかったですね。映画とかも好きでした。私達の子供のころは三条も良い映画館が多かったですしね。」

加藤会長「たしかに私も親に連れられて大きな劇場のような映画館に行きました。ＴＶドラマも見入ってましたし、東京に行ってドラマの舞台になった場所を見つけると妙にうれしくなったり。」

高橋克実「『俺たちの旅』の真似して井の頭公園で意味もなく肩車してみたりとかね（笑）」

加藤会長「私も同じような体験をしていますが、それを本当にやる側になられたところがすごいです。私が先輩のことを知ったのはフジテレビの「ショムニ」の頃からで、東高卒業生が、しかも同じような年代なのにＴＶに出ているというのは衝撃的でした。最近ではやはりＮＨＫの「フルスイング」でしょうか。こちらは東高の大先輩方もみなさんご覧になっているようで、克実先輩を知らない人は居ないのではないでしょうか。」

高橋克実「皆さんから楽しんでみてもらえて本当にうれしいです。東京へは本当に憧れで予備校時代もちっとも勉強しなかった。井の頭線・東松原の寮に住んでいたのですが、自転車で有名人の家の前に行ったり、仲間と遊びほうけていました。でも今となればそうしたひとつひとつが役者としての素地になっていたのかもしれません。何かしなければと養成所に入所、その後「劇団離風霊船」に所属しますが、とにかくバイトをやって、その稼ぎで舞台をやってみたいな生活でした。「ショムニ」にレギュラーで起用されたときもバイトしてましたから（笑）。とにかく夢だけを追っかけていた。「フルスイング」だって奥さん役が伊藤蘭さんですよ。私達の時代はキャンディーズですから、その憧れの人が自分の女房役なんていうのはまさに夢です。実は「フルスイング」の少し前に松本幸四郎さんの舞台でも伊藤蘭さんとは夫婦役でした。ですから舞台や撮影でご一緒させて頂いた半年間はとても幸せでしたね。」

加藤会長「キャンディーズは私も憧れでした。だから克実先輩が蘭ちゃんと夫婦役をしているのを見て、うらやましいというより嫉妬してしまいましたね（笑）。

　役者としての克実先輩もとてもカッコよいのですが、フジテレビの「トリビアの泉」や「爆笑レッドカーペット」でも先輩のマルチぶりが発揮されていますね。私の子供達も大ファンですが、今日、克実先輩に会うんだよと言っても信用してくれません。今日はぜひ一緒に写真を撮っていただき、帰ってから自慢したいと思います。」

高橋克実「レッドカーペットは本当に面白いです。皆さんはＴＶで見られているけど、あのライブ感はたまらない。あの短い時間の中で芸人さんがきちんとネタの構成から考えてきます。そして反応がダイレクトに伝わる。演じる側の緊張感は舞台に通じるものがありますね。私の立ち位置は舞台の脇になるので、直接芸人さんの舞台は見えないんですよ。ですからモニターで見ている。私の前には観客の皆さんが居て、私はそれを観察するわけですね。ニッポン放送で「高橋克実と山瀬まみ　おしゃべりキャッチミー」というラジオ番組を持っているのですが、こちらも一応構成はありますが、その場その場で対応していかなければならない。そういう緊張感は良いですねぇ。」

加藤会長「楽しい話でいつまでもお聞きしたいところですが、残念ながら時間は有限です。最後に後輩たちに一言頂けないでしょうか。」

高橋克実「そうですね。私自身まだ途上の人間ですが、とにかく何でも良いんです、夢を諦めないで欲しいですね。そしてとにかく止めないこと。やりたいことがあってやり続ければきっと夢はいつか現実になる。」

加藤会長「良いお言葉です。今日はほんとうにありがとうございました。」

　和やかなムードの中、土曜の午後3時間程度の対談でした。

　高橋克実君はＴＶで見たままの人で、飾るところも無く、本当に高校の同窓生として付き合ってくれました。実は紙面には書ききれなかったのですが、夢を現実にするために役者を目指したときから、誰にも負けないくらい演劇の勉強をしたことを最後に付け加えたいと思います。彼の独特な透明感は土台がしっかりしているから出せるんですね。

小林哲也（高31回生）

母校、百年の跫音（中編）

本山高平

1　県知事への「意見書」

県立移管の経過説明です。県議会議長から小原県知事あての本校県立移管に関する「意見書」の内容を左に示します。

勿論、三条町から県議会議長あての「建議書」が出されて、議会の参事会、委員会等で審議されました。ふり仮名をつけました。

「三條町立高等女学校縣移管ノ問題ハ夙ニ本縣教育界ノ提唱トナリ三條町ヲ中心トセル南、中、西ノ三蒲原郡及三島郡ニ亘ル中越関係町村長ノ連署請願トナリ、本縣會ニ於テモ大正十年以来毎次満場一致ノ決議ヲ以テ其實現ノ促進ヲ要請シツツアリ而モ時偶郡制廃止ノ結果郡立学校ノ県移管並ニ既設学校ノ学級増加等ノ為縣経済ノ案配ニ籍口シテ未タ之レカ實行ヲ見サルハ本縣會ノ甚タ遺憾トスル處タリ三條ノ地タル中越ノ中枢ニ位シ戸数五千、人口二萬八千、本縣下三市ヲ除ケハ町村ノ第一位ニアリ文化ノ進展街衢ノ殷賑素ヨリ他ニ比シテ一日ノ長ナカラストセス加之最近越後鉄道参宮線ノ延長ハ三條町ヲ貫通シテ遠ク下田郷ニ入ラントシ、官私両鉄道ノ交叉点ニ位スルノ景勝ヲ占ム、現ニ町立三條高等女学校ハ二学級募集ヲ実施シツツアルニ其入学分野ハ三條町ハ僅カニ四割七分ニ過キスシテ他ノ五割三分ハ西蒲原郡外他郡市町村ノ女子タルニ於テ該学校ノ縣移管ハ最早ヤ一日モ看過シ置クヘキニアラサルナリ冀クハ閣下此事実ニ鑑ミ、女子中等教育ノ配置上ヨリ亦タ県民負担ノ均衡上ヨリ速カニ案ヲ樹テ大正十四年度豫算ニ計上セラレンコトヲ

右府県制第四十四条ニ依リ意見書提出　候　也

大正十二年十二月二十三日

新潟縣會議長　松木　弘

新潟縣知事　小原新三殿

2　県立移管期成同盟会

2年前の大正10年10月11日に設置されています。大正10年4月に組織を変更して実科高女が高女になり、その時点で町議会や町学務委員会で、県立高女設立の請願等が話し合われています。

前後しましたが、期成同盟会（正確には高女校県移管期成会といいました）は構成40人。半数が町会議員でした。その初会合で前号で述べた校長清水家助は、

「期成会は県移管の目的を達成すべく町当事者と連絡をとり、援護して移管に関する一切の事情につき活動をしていたゞきたい。」

敷地争奪も嵐南の四日町・由利嵐北では裏館・一ノ木戸横枕の四か所があがり、大正14年2月5日には、県学務課長、県視学・建築技師等一行が実地視察をしています。結果的に横枕の地に建てられます。この地名について調べましたら、今から三五〇年程前の明暦3年8月、村上藩一ノ木戸村検地帳に出ています。柳田國男著『地名の研究』では、横枕を成功開墾地の地割りをするに当たって、地形の都合上幹線に並行して割ることの出来ない、大部分の用地の上端に横長に形の出来たもの、と記されています。また、県内の地名研究者小林存は、耕地整理の技術から来た、第二次的地名と言っていますが、いずれにしろ、田んぼのドまん中へ建ちました。

3　大正14年3月の卒業式

県立移管が決まった大正13年11月18日の通常県会。年があけた14年、本校の卒業証書授与式は例年3月23日前後でしたが、「県立」の入った証書がもらえるかどうかで大モメ。さらに清水校長の勇退を勧める県の内示で、町当局の対応も首尾一貫せず、結果的に学校がホンロウされて、**3月31日に挙行**されました。当時の北越新報（大正14年3月31日付に詳報）に掲載されていますので、これ以上のことは枚数の関係で書きません。

そうです、戦前の教育を受けた同窓生は、**教育勅語**と**勅語奉答歌**について深く刻み込まれていると思います。良妻賢母の教育とも係っていますので、これらの歴史をまとめますと、立派な本が一冊出来上がる程ですが、ペンを先きに進めず、擱きます。

卒業式では、**皆勤**、**校友会**、そして**優等賞**等も授与されました。

今では想像できませんが、成績順に卒業生の呼名とか、優等賞をもらう者が新聞写真掲載（これは全県的に行われてました。昭和のはじめから、15～16年まで続きました）。序で乍ら、入試の合格者表も成績順。補欠もありましたので、発表をみれば分かる、といった具合でした。然し、時代の流れ、或いは、生徒たちの意見で改善されていきました（50周年記念誌の回想文に載っています）。

4　文化講座を開く

大正デモクラシーという言葉は、何か昭和の戦争時代と比べると、心の中にホットした語感を与えると思います。

本校では、県の委任を受けて次のような家庭婦人向けの講座を、大正13年9月14日（日）から日曜日毎に6回開催していました。

- 清水校長　文化と道徳の列位
- 神保教頭　輓近の国際事情
- 水谷三条区裁判所判事　婦人の法律
- 森山三条中学教諭　台所に於ける熱
- 山崎三条中学教諭　保健と衛生

各講師が3～4時間担当しています。昭和9～10年代にも実施され、当時の吉岡校長（10年間勤務）も講師をつとめています。

5　修学旅行のあらまし

『80周年記念誌』には2頁に亙って概略が述べられています。泊を伴なう旅行を指していますので本校の第1回は、**女子工芸学校**時代の**明治43年6月2日**に、1泊2日で大河津分水工事及び水産試験場を視察しています。附設校の高等科と一緒で、82人と出ていますので全学年が行きました。

残念ながらまとまった資料が見当たらず、実科及び高女時代のアルバム等を検証しなければなりません。

聖地参拝としての関西方面旅行は、県立移管となった大正14年秋（一九二五年）でした。昭和12年秋以降、中止。**15年は特別に実施**され、同窓生の方々も〝悲運〟をさぞ嘆いたと思います。つくづく戦争はダメ―それも絶対なんですね。昭和26年から再開されます。

6　県大会の総合得点一覧

前号では大正13年から昭和18年迄の各種目の記録を載せました。

中段の表は、長岡大手高百年史に載った資料を筆者が当時の新聞記事を丹念に収録し、修正加筆しました。本校初出資料です。

大規模校の新潟・長岡・高田は千人の生徒数。本校は大正14年で四百人ですので、スゴイ実績だということが分かります。昭和5年は本校が主管校。陸上総合1位でした。フォークダンスは本校の校庭で行われました。陸上記録は次の通り。50M走3位・100M4・5位・200MR4位・400MR4位・走高跳3位・走巾跳3位・三段跳2位・短棒投2位―全種目に入賞。

籠球は3位で、庭球・排球は敗退しています。因みに陸上2位は高田と巻で、なぜか新潟は6位となり、翌年奮起して1位になっています。表中の丸囲みの数字が順位を表示しています。

尚、参考ですが、私立女学校は第4回の大正15年、新潟聖友女学校が初参加し、2年後の第6回には新潟女子工芸（現在の清陵高）と長岡実業女学校も参加して3校出場し、昭和18年では長岡地区2校、高田柏崎地区3校の計5校。

旧高女　講堂にて弓道部　昭和６年度（1931）

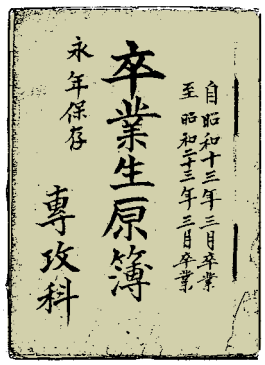
昭和５年９月24日（1930）

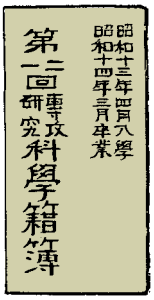
回・年度 / 各校	第1回 大正12	2回 大正13	3回 大正14	4回 大正15 昭和元	5回 昭和2	6回 昭和3	6回 陸上	7回 昭和4	8回 昭和5	8回 陸上	1(通9)回 昭和6	1(通9)回 陸上	備考
1本　校	－	(※)バスケ3位	(※)バスケ3位	8⑦	12⑦	31③	18④	40③	33②	29①	34④	23④	※陸上、バスケットに入賞している。
2新潟高女	26①	20①	31②	35②	38②	54①	35①	57①	20⑥	10⑥	44②	41①	昭和10年～バスケットの大活躍あり
3巻	1	3⑦	5⑦	0	16③	27⑤	11⑥	15⑥	29⑤	26②	11⑧	11⑦	
4新　津	2⑥	7③	12⑤	6⑪	5⑩	4	0	9⑧	6⑪	0	0	0	球技(バスケ・バレー)に力を注いだ。
5新発田	11③	4⑥	21③	20③	14⑤	18⑥	5⑩	4	10⑦	6⑨	17⑤	15⑤	
6村　上	0	0	0	0	0	0	0	6⑩	0	0	0	0	
7長　岡	12②	14②	35①	42①	39①	37②	25②	44②	46①	24④	49①	25②	大正13～15年神宮大会の大活躍あり
8柏　崎	0	0	1	8⑦	12⑦	31③	25②	40③	33②	20⑤	9⑨	1⑪	
9高　田	2	2⑧	3⑩	15⑤	5	10⑨	5⑩	29⑤	31④	26②	42③	25②	
10糸魚川	0	0	5⑦	8⑦	15④	4	4	9⑧	5⑬	5⑩	3⑭	3⑩	
11河原田	1	0	－	0	1	10⑨	8⑦	4	9⑧	9⑦	8⑩	8⑧	
12長岡女子師範	4④	7③	21③	14⑥	13⑥	14⑦	6⑧	0	6⑪	0	6⑫	0	昭和15、16年バレー神宮大会出場
13村松(町立高女)	3⑤	5⑤	11⑥	19④	9⑨	6	0	6⑩	1⑮	0	5⑬	0	
14小千谷(町立高女)	2⑥	2⑧	3⑩	4	1	0	0	13⑦	7⑩	7⑧	0		
15佐渡(学校組合立)	0	－	0	0	0	0	0	0	0	0			
16新潟市立実科高女	0	0	0	0	0	12⑧	12⑤	0	0	0			
17亀　田　〃	(※)1位	(※)3位	( )	( )	－	－	－	－	廃校				※バスケット1位、3位
18白　根　〃	－	－	0	4	0	0	0	0	0	0	12⑦	12⑥	
19見　附　〃	－	1	0	0	0	0	0	4	0	0	0		
20加　茂　〃	0	0	5⑦	0	5⑩	6	0	0	9⑧	( )	7⑪	0	バレー・弓道　1位あり
21栃　尾　〃	－	0	－	0	0	0	0	0	0	0	0		
22直江津　〃	－	0	1	8⑦	0	1	1	0	4⑭	0	14⑥	4⑨	
23十日町　〃	－	－	－	－	－	( )	( )	( )	( )	( )			
24六日町　〃	－	－	－	－	0	0	0	0	0	0	0		
25安　塚　〃	－	－	－	－	－	1	1	( )	( )	( )			※昭和６年度（通９回）21校参加 佐渡相川町立相川実科 庭球３点
26新　井　〃	－	－	－	0	0	0	0	0	0	0			
27佐渡農女子部	－	－	－	0	0	6	6⑧	( )	0	0			

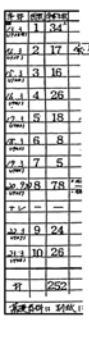
7　専攻科について

昭和12年4月本校に附設。高等女学校令に基くものではなく県の認可のもと、土地の情況により設置されました。県内ではどうだったのでしょうか。少し調べてみました。同時期は県立河原田高女（同窓会主体）。昭和7年新発田高女、昭和9年に直江津・長岡（研究科）、10年村上、11年新潟（家庭寮といった）というように、1箇年の修業年限でした。

昭和20年は募集なしでしたが、全県的に卒業生を専攻科入学扱いとして、軍需工場へ女子挺身隊として派遣しています。本校では78人です。8月15日、敗戦になって







いますので、この年の修了證書は9月30日付ですので、6箇月の期間でした。尚、この年の12月1日に県外に派遣（神奈川相模陸軍造兵廠）された挺身隊の帰校歓迎及び慰安学芸会開催された、と「沿革誌」に記録されています。

専攻科修了生は累計252人。慕光会名簿を見て分かる通り、昭和7年から10年間校長を勤めた、吉岡義雄の娘6人全て同窓生。その内3人が専攻科を出ています。

昭和21年（1946）専攻科9回生
音楽教諭小林芳介を囲んで

既述した通り、「少し調べた」と書きましたが、不明な点、例えば履修内容とか使用教材、それに月の授業料、そして進路状況であります。同窓生から聴き取り調査をせねばと、考えています。

尚、本校には永年保存の「学校概覧」が昭和4年度（1929年）からありますが、余り記載されていないのは大変残念です。「本校附設」の形ですのでどこかに保存されているかも知れません。

8　学徒動員と応召された教員

昭和15年紀元二千六百年を祝して、伊勢神宮など聖地巡礼を条件としてこの年のみ修学旅行許可。

最大の楽しみを奪った戦争の傷跡は、後々まで同窓生たちの胸にニガイ想い出となって残っていると思います。

さて、動員体制は昭和18年6月閣議決定の「学徒戦時動員体制確立要綱」をはじめとして次々と文部省から発出されていきます。紙数の関係で省略しますが、敗戦直後、これらに関する書類が焼却され、公的には県立文書館にある三部のみで、本校に係る玉木シゲ教諭の息子哲と、教諭中村正二（昭和20年6月25日応召―県教学課学徒動員本部へ）の資料です。

・本校の動員状況
栗山航空機　百人
三條航空機　五十人
田中工業　五十人
三條物産　五十人
燕重工業　五十人
（昭和20年9月15日　現在）

全県では、六千三百四十人（第3学年以上の動員で、33か校。高女は勿論のこと、実業学校女子部を含む）。2年生以下は百三十人。県内の派遣先工場等は47か所です。

新潟日報の「銃後の青春シリーズ」連載―平成14年8月8日付を参照できます。本校の『50周年記念誌』に、同窓生の回想文―それこそ苦しかった当時の様子が述べられています。因みに全国動員（女子）をみますと、

・軍需生産へ　55万1千人
・食料増産へ　11万5千人
・防空防衛へ　2万3千人
計　68万9千人で動員比率86.1％
（昭20年3月　調）

『60周年記念誌』に次のように出ているので引用してみます。

「上級生は毎日のように勤労動員で工場通い。三条の中島航空機、三条航空機、海軍の褌（ふんどし）工場、あるいは燕の捧工場へと、先生と一緒に出かけて行った。飛行機迎撃砲の部品や兵隊さんの越中ふんどしまで作った。汗と油とで真黒になりながら、マメの出来た手で、一つでも多くと皆な懸命だった。

戦闘帽に日の丸鉢巻、防空衣に救急品袋と、防空頭巾を十文字に肩に掛け、誠に勇壮な姿でした。

三條航空機工場にて。写真は第33回女 樋口（旧姓山本トシ）の提供です。

卒業後は、大学進学者、教員就職者を除き、約半数の人は女子挺身隊という名の下に、神奈川県等の軍需工場へ出掛けて行った。（中略）学校の工場化で、講堂などに電線が引かれて、その準備が進められたが、実現されない中に終戦を迎えることになった。」

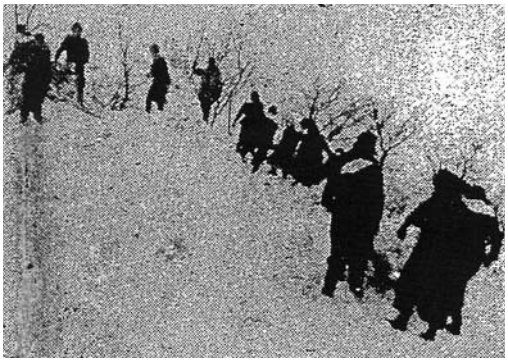
・応召された教員
教諭丸山　浩・昭17年8月1日応召
戦死公報昭19・7・18
校葬をとり行なう
〃　早川玉吉・昭18年6月1日応召
昭20年―復員
〃　吉永新一・昭18年6月18日応召
戦死公報昭20・6・30
〃　中村正二・昭20年6月25日応召
県教学課学徒動員本部
昭20・8―復帰

筆者の調べで4人の教諭をあげました。お二人が亡くなっています。昭和17年から20年にかけての校長は、県視学から赴任して、創立30週年記念を執り行なった岩橋八洲民。1か年後十日町中学校長（旧制）へ転出。後任へ小千谷高女校長であった大分市出身の大石新が赴任。大激動の3か年を奉職した。学徒動員、教員の応召、**臨時教員養成講習所**の開設（昭和19年と20年―各6か月で、本校生が約50人修了生。正式な国民学校の教諭として赴任していき、大石所長の勤務先割り当て等々あり）やらで、昭和21年5月、故郷の大分市立高女校長として転任するが、「本当に三條高女の皆さんは、よく身も心も粉にして生き抜いて呉れた。今頃どうしてるだろう」と日々、憶い出して子息たちに語っていたと言います。筆者も住所を探し当てて、昭和20年3月卒のクラス写真3枚と、故丸山教諭ご母堂さまからの文一通を寄贈して頂きました。

9　校庭に自作スキー場

教諭番場正英は、「三條高女の体操教師として……昭和17年4月であった。スキー山まであったし実によくまとまった形のよい美しいグラウンドで、殊に咲き始めた桜並木は素晴らしかった……グラウンドもスポーツの場所から、作業団体訓練・閲兵式に明け暮れる……遂には大部分が野菜畑に変っていったのである……」（『50年誌』）

写真は昭和17年1月22日、新潟日日新聞の掲載である。三條高女決戦下銃後乙女の心身鍛練。全校生徒が勤労報国隊の旗印のもと、高さ5M、30Mのスロープ作り。まさに「冬期はスキーで心身鍛練」、と出ています。



足早やに昭和20年前まで辿（たど）りました。敬称は全て略させて頂きました。次号は、愈々（いよいよ）最終編です。

学校概況報告

Ⅰ　進路状況（過去５年間）（進路指導部資料より）

１　卒業生の進路内訳

卒業年度	国公立大学	私立大学	国公立短大	私立短大	専門学校	就職・公務員	その他	在籍
17年度	12	140	17	35	115	12	21	352
18年度	16	142	13	29	132	11	11	354
19年度	23	157	12	27	95	12	19	345
20年度	23	155	0	27	81	12	16	314
21年度	16	144	1	20	84	10	25	300

２　主な進学先（過去５年間）

〈国公立大学〉
新潟（人文・法・経済・教育人間科・理・工・農）
長岡技術科学　上越教育　新潟県立看護　新潟県立
北海道教育　北見工業　室蘭工業　秋田　山形　筑波
宇都宮　埼玉　一橋　東京芸術　富山　金沢　鹿児島
会津　高崎経済　埼玉県立　宮崎公立　群馬県立女子

〈私立大学〉
酪農学園　東北学院　東北福祉　足利工業　白鴎
東京国際　城西　獨協　文教　淑徳　埼玉工業　駿河台
千葉工業　青山学院　亜細亜　桜美林　北里　大妻女子
工学院　國學院　国士舘　駒沢　実践女子　成蹊
昭和女子　専修　大正　大東文化　拓殖　玉川　中央
帝京　東海　東京音楽　東京経済　東京家政　東京農業
東洋　日本　日本体育　法政　武蔵　東京都市（武蔵工業）
明治　明治学院　明星　立正　立教　神奈川　関東学院
金沢工業　長野　山梨学院　近畿　関西外語　関西学院
敬和学園　新潟産業　新潟薬科　国際情報　新潟経営
長岡造形　新潟工科　新潟青陵　新潟医療福祉　長岡

〈国公立短期大学〉
県立新潟女子　山形県立米沢女子　長野県立　大月　会津
大短大部　長岡工業高専

〈私立短期大学〉
新潟工業　新潟青陵大短大部　新潟中央　日本歯科大新潟
明倫　國學院大栃木　亜細亜大学短大部　鎌倉女子
昭和女子　昭和音大短大部　実践女子　女子栄養大短大部
東京福祉大短大部　東横学園女子　武蔵丘　山脇学園
金沢学院　立教大女子短大部　日本体育大女子短大部

Ⅱ　部活動・同好会の紹介

１　編成

〈運動部〉
バスケットボール　ソフトテニス　テニス　バドミントン
野球　バレーボール　卓球　ソフトボール　少林寺拳法
ダンス　陸上競技　山岳　剣道　サッカー　水泳

〈文化部〉
美術　書道　吹奏楽　コーラス　写真　文芸　英語　演劇
生物演芸　放送　華道　茶道　琴　生活文化

〈同好会〉
軽音楽　パソコン

慕光会 役員会報告

鳥部　隆行（高49回生）

慕光会役員の主な仕事は、５月の常任幹事会、７月の慕光会総会の準備と運営のほか、学校行事への参加があります。平成21年度は、ＰＴＡ総会への参列、体育祭・文化祭の見学、慕光会入会式への参列、卒業式への参列などを行いました。その他、平成22年度の東高創立百周年に向けて、記念事業実行委員会への役員出向も行っています。

また、本会報の原稿執筆や編集作業、ホームページの管理も行い、慕光会会員及び対外向けの情報発信にも力を入れています。役員間の情報交換は主にメーリングリストを用い、日々の情報共有を図っています。最近では、mixiを始めとするインターネット上のＳＮＳなど、同窓生が集まって情報交換するサイトが数多くあり、情報の発信・共有の手段は多様化しています。これら点在している情報を、いかに集約し、使いやすくして行くかというのが今後の課題になってくると思われます。

今年度、慕光会役員は大幅な増員をいたしました。これは、いよいよ今年に迫った百周年記念事業に向けての補強です。特に高31～35回生を中心とした働き盛り世代が新たに加わり、母校の周年事業をしっかりバックアップしていく体制が整いました。また、最年少役員として、高59回生の佐藤淳哉さんを迎え、益々幅広く活動するための基盤を固めつつあります。

「東高卒業生」という共通項がある限り、同窓会は存在しますが、ただ存在しているだけでは勿体ないです。せっかくの同窓生網です。情報のアンテナを張り巡らし、頼れる伝手は頼る。そんな有意義な活用ができる同窓会組織になるよう、役員も知恵を出して行きたいと思います。

役員名簿（平成二十二年度）

名誉会長　須佐尚子（校長）
会　長　加藤一芳
副会長　下村宏子・小幡初春
　　佐藤隆志・鳥部隆行
　　小川修司・佐藤雄一
　　田辺健一
書　記　片岡克教（教頭）
　　小林哲也
　　佐藤淳哉
会　計　池田カズイ
　　早川　博
会計監事　五十嵐八代栄
事務局　水野　彰
　　永井義夫
　　金子佳澄

山荘便り

～2009年の春から20数年後の春へ（追憶）～

3月9日の月曜日、週の初めからハードワークのため重く固まった身体を引きずって夜9時過ぎに帰宅したところ、子供が、暗い顔をして固まっている。

ハッと思い出した。今日は入試の日だったんだ。もしかして、試験の出来が・・・。

恐る恐るそっと聞いてみる。「試験どうだった？」「・・・。」

やっとのことで、重い口から出た言葉が、「いっぱい間違った。できなかったよぉー。」「でも、大丈夫だよ。今年は定員割れだから、よほど出来てない限り、合格するよ。」

確信のない慰めを言ってみたが、いまいち元気にならない。「お父さん。合格発表のとき、一緒についてきて。」

う～ん、今週は確定申告のピークで、1時間でも時間が惜しい。それでも、なんとか午後からお休みもらって、1日おいて、いざ発表の当日。

会社から車で1時間の帰宅の道中。「大丈夫かな、大丈夫だよなぁ。」もしかしたらダメかもしれないと、不吉な思いが頭の中でぐるぐる回る。

そんなこんなで、子供と一緒に学校へ着いたのが、午後2時15分。すでに合格発表は始まっていて、生徒玄関へ続く道は、路上駐車で大渋滞。ようやく、一台分空いていた路肩に止めることができた。

必死の形相で、発表を見に行く子供の後姿が、車から遠ざかる。人ごみにまぎれて、姿が見えなくなって、5分、10分・・・。眼を真っ赤にして、小走りに戻ってくる姿が、脳裏をよぎる。

ふと、車のドアが開いた。

「お父さん、合格したよ。入学の手続きの書類も、もらったよぉ。」嬉しそうに、喜ぶ顔がそこに。よかった。やったぁ～、ホットしたぞ。「そっか、そっか、よかったね。これで、お父さんの後輩になったね。おめでとう。」「うん。」

「お父さん。こんなのも、貰った。2枚もくれたよ。」見ると、かわいい手書きの、女子山岳部新入部員募集のビラが。

そういえば、ふと20数年前のことを思い出した。やっぱり、合格発表を見に行ったときに、綺麗な先輩から、山岳部員募集の手作りのチラシを貰ったっけ。その先輩に憧れて、山なんか行ったこともないのに、山岳部に入ったんだよな。次の年も、その次の年も、今度は、配るほうになって、可愛い女の子にばかりチラシを渡したけど、結局、渡した子達は入らなくて・・・。懐かしい、高校時代の山岳部の思い出が蘇ってくる。

高校を卒業して、まさか自分が、巻機の会を通じて、東高に関わるなんて思いもしなかった。しかも、清水山荘の新築や、管理まで関わるなんて想像もできなかった。

巻機の会は、三条東高校の山岳部OB、OG、顧問、新旧教員、職員、その他東高関係者等で創る、多分、東高で唯一のクラブOB会組織です。一緒に在校したことがなくても、先輩、後輩、年齢が離れていても、8月の清水山荘で、満天の星空の下、焚き火の炎で、語り明かせば、旧来の知己のように話せます。

現役の山岳部員の諸君、素晴らしいクラブに入ったね。高校を卒業しても、清水山荘で先輩たちと一緒に過ごして楽しい思い出を作ろうね。

清水山荘利用の手引き

〈利用できる方〉

山荘の利用資格は以下の三条東高校の関係者に限られています。

(1) 三条東高校卒業生

(2) 三条東高校在校生・PTA（学校の指導のもとで）

(3) 三条東高校職員、及び旧職員

(4) 以上の同伴者（1～3の同伴が前提）

〈利用可能期間〉

十一月下旬の初雪の頃から四月下旬の雪解けの頃まで山荘は冬囲いをしてあるため、一般の方のご利用は五月の連休以降が望ましいです。

〈申込み手順〉

※必ず以下の手順を厳守してください。

(1) 利用の予約を「巻機の会」中山会長へFAX【0256-62-5274】。1、代表者の氏名　2、住所　3、利用月日　4、人数　5、電話番号　を明記する。（お申し込みが重なった場合は1週間以内に連絡します）

(2) 現地管理人「上田屋旅館」に電話【02578-2-3403】する。お名前と利用する月日を伝え、鍵を受け取りに行く時間を約束してください。

以上で申込み完了です。

〈山荘使用料〉（1泊／お一人当たり）

大人（中学生以上）：二、〇〇〇円　小学生：五〇〇円　小学生未満：無料

日帰り：1パーティー一、〇〇〇円以上のカンパをお願いします。

※使用料のお支払いは上田屋旅館にある巻機の会の郵便振替用紙でお願いします。

詳しくは慕光会のHPを参照ください。

URL：http://bokoukai.com/rules.html

山荘利用の留意点を必ずお読みください。

＊規定料金を定めましたが、その他寄付大歓迎いたします。

百周年記念祝賀会出演
コーラス「ひめまつ」のご紹介

百周年記念祝賀会で校歌の三部合唱をしていただくコーラス「ひめまつ」さんをご紹介いたします。メンバーは全て高３回生、戦中戦後の激動の時代に学生時代を過ごした先輩方です。

当時の校舎（旧校舎）は桜の名所で春になると水を張った田んぼに写る桜がとても綺麗だったそうです。戦後、進駐軍の宿舎として提供されたことから、泣きながら机を運び出し、ようやく戻ると、土足で踏まれた廊下は汚れ、講堂の御真影が奉置されていた処にバスケットボールが投げつけられていた跡を見てまた涙したそうです。卒業後は日本の経済復興、高度成長を支えた激動の時代を過ごしてこられました。

そんな想いの深い青春時代を共に過ごした同期生が再会したのは26年前のこと。

リーダーの廣野絢子さんの呼びかけに応えて集まりました。

「私達の時代はドレミじゃなくてハニホヘトの時代だから音符も読めないのよ。」と笑って話されますが、取材の日も初めて歌った曲とは思えないすばらしいハーモニーでした。毎年行われる三条市合唱祭で歌うのが目標と毎週集まって練習しています。でもお楽しみはその後みんなで食べる昼食会。このときばかりはみんな女学生に戻って昔話や近況を話し合っているそうです。

今回の取材でまたしても東校百周年の歴史を感じさせられました。

そんな先輩方のコーラスは百周年記念祝賀会に最も相応しいと思います。

それにしても皆さんお若い！

◆◆関東支部だより◆

「百周年、大クラス会のススメ」

慕光会関東支部
佐藤隆志（高29回生）

いよいよ百周年です。そこで「思い出に会う　百周年記念バスツアー」という企画はどうでしょう。

ツアーは日帰りで1万円位か、開催時間の都合で前日入りしなければ成らない場合は、一泊で2万円か。などと思案しています。集合場所は東京駅。参加者は最低40人は必要ですね。卒業生で旅行業界の方はいませんでしょうか。一緒に企画を練りましょう。故郷を離れて生活をしている我々は個人で新幹線で参加するよりも団体で行けば安く楽しく参加できます。

会場へはパーっと乗り込みます。バスには垂れ幕で「祝い！新潟県立三条東高校百周年」と目立つようにしたいですし……と妄想中です。とにかく百年に一度のことなのでできるだけ参加しやすい形を考えたいと思います。

ところで「百年」と一言で言うけれど、多くの先生や職員、そしてPTAの方々がおり、思えば、約26、000人の青春時代があり、東高生一人が3年過ごしたとして約8万年の時があったことになりますね。百周年事業の当日はいったいどんなサプライズがあるのでしょう？　もしかすると高女時代の先輩が現役女子高生と仲良く並んで写真を撮ったりする姿が見れるかもしれません。最新情報だと現役生とはとても元気らしい（昨年の運動会をご覧になった会長談）。

記念日の当日に1万人位が参加したら本当に凄いでしょうね。会場に入りきれないことは間違いありません。そんなうれしいことも実行委員は考えなければならないでしょうね。（笑）

しかし形だけではなく心に残る時間を皆さんと共有できれば良いと思います。

そしてこの百周年を期に東高校も父兄も地域も慕光会もちょっとづつ変わります。一緒に大切にしたいものを持つことが、それをより良いものへと高めていくことでしょう。

それでは早急に全学年でクラス会を企画しましょう。期日は10月23日の土曜日、場所は「ハミングプラザVIP三条」、時間は午後2時、イベントもてんこもりです。クラスでテーブルを占領してください。今年の幹事さんは楽々です。

ぜひ卒業生全員がこの百周年を祝ってください。近くの方はぜひご参加ください。遠くの方はメッセージを送ってください。いろいろなところで卒業生が生きているんだということを伝えましょう。ではお会いする日までお体に気をつけて！

▼▼編集部からのお願い▲▲

クラス幹事の皆様は同級会等を開催する場合の連絡の場としても、この会報をご活用ください。三月下旬までに原稿を頂だけましたら掲載することができます。

また、皆様からのお便り、紙面に関するご意見、ご希望等がございましたらご連絡頂ければ幸いです。

あわせまして、百周年に向けて資料を集めています。生徒会新聞「ひめまつ」をお持ちの方はご協力をお願いします。

◇◇◇編集後記◇◇◇

百周年記念特別号では、加藤会長のとても熱いメッセージからはじまり、企画から3年がかりでの実現で俳優の高橋克美さんに登場していただきました。実に楽しいインタビューでした。本山元校長の「母校百年の跫音」は後編と思いきや中編です。戦前・戦中・戦後の大変な時代に青春時代を過ごした先輩方の強さと未来への夢をもって生きる姿を見習いたいと思います。

今後も東高校の卒業生らしく個性とアイデアを発揮して調和のとれた良い紙面を作っていきたいと思います。ご協力宜しくお願いします。